

厚岸沿岸に侵入した外来種 キタアメリカフジツボが在来生物の多様性に与える影響

金森由妃¹，岩崎藍子¹，大平昌史¹，胡之楊¹，平賀優大¹，立花道草¹，深谷肇一²，野田隆史³

¹ 北海道大学大学院 環境科学院

² 統計数理研究所

³ 北海道大学大学院 地球環境科学研究院

キタアメリカフジツボ (*Balanus glandula*) は北米西岸が原産の外来フジツボである。本種は原産地の岩礁潮間帯の固着生物のなかで最も多い種で、日本では 2000 年に三陸沿岸で初めて発見された。厚岸沿岸においては、2006 年に侵入が確認され、その後増加していることが報告されている。外来種の侵入はしばしば競合関係にある在来生物の駆逐と種多様性の低下を引き起こすため、厚岸沿岸に侵入した本種が在来種の固着生物に対して負の影響を及ぼす可能性が懸念される。とりわけ、厚岸沿岸の岩礁潮間帯にはフクロフノリ、マツモなどの水産有用種が多く生息しているため、これらの水産資源の持続可能な利用を保証する上でもキタアメリカフジツボの影響を評価することは重要である。そこで本研究では、外来種キタアメリカフジツボによる在来の岩礁潮間帯性固着生物への影響を明らかにするために、(1)個々の在来生物の被度と在来生物群集の多様性は、キタアメリカフジツボ侵入後の経過時間に伴ってどのように変化したのか、(2)キタアメリカフジツボが在来生物の個体数変動に与える影響、を検討した。主な結果は、以下の通りである。

(1-1) キタアメリカフジツボと在来生物（キタイワフジツボ、フクロフノリおよびマツモ）の被度の変化

- キタアメリカフジツボの被度 2007 年 10 月までは 0。2010 年 7 月 - 2012 年 7 月には増加したが、2012 年 10 月以降は減少し、現在は少ない。
- 在来生物の被度 キタアメリカフジツボが増加した 2010 年 7 月 - 2012 年 7 月に被度の減少がみられた在来生物は、フクロフノリだけだった。

(1-2) 在来生物群集の多様性の変化

- キタアメリカフジツボが増加した 2010 年 7 月 - 2012 年 7 月に、在来生物の多様性が減少することはなかった。

(2) キタアメリカフジツボが在来生物の個体数変動に与える影響

- キタイワフジツボの個体数変動に対してのみ、負の影響を与えていた。

本研究の結果、厚岸沿岸へ侵入したキタアメリカフジツボの在来生物への影響は、予想に反して小さいと考えられる。しかし、キタアメリカフジツボはキタイワフジツボの個体数変動に負の影響を与えることから、今後、キタアメリカフジツボが増加した場合には、キタイワフジツボの減少を引き起こすだけでなく、キタイワフジツボの減少を介して在来生物の多様性を大きく変化させる可能性がある。